

甲西町文化財調査報告

MURAUCHI

村内遺跡

—甲西町鮎沢字村内遺跡発掘調査報告書—

1997

甲西町教育委員会

MURAUCHI

村 内 遺 跡

—甲西町鮎沢字村内遺跡発掘調査報告書—

1997

甲西町教育委員会

序 文

中巨摩郡甲西町鮎沢字村内は甲西町のはば中央に位置しております。

甲西町は昭和30年に大井、落合、五明、南湖の四村が合併して以来、40年を迎えることができました。本町では甲西工業団地の創業、さらに甲西バイパス、中部横断自動車道の開通に伴い、岐西地域の核として今までにない躍進が期待されております。

こうしたなか、民有地における開発事業の申請に基づき、甲西町教育委員会では工事に先立ち、文化財保護法により遺跡の発掘調査を実施することになりました。

調査の結果、古墳時代の住居址と多量の土器が出土するなど、本町の歴史を解明するうえで貴重な資料を得ることができました。これらの資料は町民が地域を知り、地域の良さを次世代に伝え、新たな文化を創出してゆく大きな意味を持つものといえましょう。最後に工事に先立ち発掘調査に対してご理解をいただいた地権者をはじめ多数の皆様に感謝を申し上げます。

甲西町教育委員会
教育長 塩沢 忠

例 言

1. 本書は民有地の開発事業に伴う山梨県中巨摩郡甲西町鮎沢字村内510番地所在の村内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は平成3年10月21日から同年11月7日まで実施した。出土品の整理等は平成4年1月16日から同年3月31日まで行った。
3. 発掘調査組織
調査主体－甲西町教育委員会・甲西町文化財審議会
調査担当－清水 博（柳形町教育委員会）、広瀬和弘（甲西町教育委員会）
事務局－大森長夫、武内松雄、古屋芳雄、藤巻和彦、依田賢治、横内義浩、藤巻貴子
4. 本報告書作成の業務分担は下記の通りである。
遺物の実測－広瀬、小林健二（県埋蔵文化財センター）
遺物のトレース－広瀬
5. 本報告書の執筆、編集、写真撮影は広瀬が行った。
6. 発掘調査、遺物整理において下記の方々に御助言、御協力を頂いた。記して謝意を表する次第である。
町教育委員 深沢熊男、井上栄一、山内市郎、有泉勝太郎
町文化財審議会 杉山松雄、飯塙三千雄、藤巻 信、新津昭治、石川安雄
県教委文化課 坂本美夫、長沢宏昌
県埋蔵文化財センター 末木 健、新津 健、中山誠二、保坂康夫、保坂和博、小林健二
地権者 北村公平
7. 発掘調査参加者 淡路 渉、井上ことじ、杉山なつよ
8. 出土品整理参加者 宇野和子、長田なよ子、平 重蔵、中込よしミ、橋口妙子、長田くみ子
9. 作成された図面及び出土遺物は甲西町教育委員会が保管している。

目 次

序 文		
例 言		
第 I 章	調査状況	1
第1節	調査に至る経過	1
第 II 章	遺跡の位置と周辺の環境	2
第 III 章	村内遺跡	4
第1節	調査方法	4
第2節	遺構と出土遺物	4
	1. 概要	4
	2. 住居址と出土遺物	5
第 IV 章	まとめ	12

挿図目次

- 第1図 遺跡位置図
- 第2図 村内遺跡調査区域図
- 第3図 村内遺跡全体図
- 第4図 1号住居址平面図
- 第5図 1号住居址出土遺物(1)
- 第6図 1号住居址出土遺物(2)
- 第7図 1号住居址出土遺物(3)

図版目次

- 図版1 1号住居址全景、1号住居址完掘状況
- 図版2 1号住居址土器出土状況、壺出土状況
- 図版3 貯蔵穴周辺土器出土状況
- 図版4 調査作業風景、発掘調査参加者
- 図版5 1号住居址出土土器
- 図版6 1号住居址出土土器

第Ⅰ章 調査状況

第1節 調査に至る経過

村内遺跡は甲府盆地の西南部、中巨摩郡甲西町鮎沢字村内にある。本地区は標高約262mの微高地に占地し、若草町十日市から江原、鮎沢さらに西落合へと続く湧泉列上に接することから、周辺は豊富な自噴井が至るところで見られ、現在本地区周辺はそのほとんどが果樹園となっているが、このような地勢条件のもと以前は水田耕作がさかんであった事が伺える。

さて、村内遺跡は北村公平氏が所有する約680m²ほどの古長禅寺に面した畑地に対して行われた発掘調査である。

平成3年8月8日、農業委員会は北村公平氏からの農地転用許可申請(農地法第5条)の際、教育委員会へ埋蔵文化財包蔵地についての照会があった。それを受けた教育委員会では文化財審議会を開いた。

本地区周辺は鮎沢遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地であったため、現地踏査を行い、文化庁に発掘通知を提出した。

さらに土地所有者、農業委員会、教育委員会との間で協議した結果、教育委員会が主体となり、発掘調査を実施することになった。開発事業に伴う緊急発掘のため、教育委員会では掛川町教育委員会から専門職員の派遣協力を得ながら文化財審議会を中心に調査が行われた。

調査経過を以下に記す。

1991. 10. 16	発掘通知を提出
10. 21	発掘調査を開始
11. 7	発掘調査終了
11. 10	小笠原警察署に遺物の発見通知を提出

第Ⅱ章 遺跡の位置と周辺の環境

村内遺跡は中巨摩郡甲西町鮎沢字村内に所在する。甲西町は甲府盆地の西南に位置し、町域は東西に長く延びる形状をなし、その東部は御動使川扇状地の影響を強く受けた滝沢川が流下している。さらに櫛形山から流入するいくつもの小河川が複合扇状地を形成しており、特色ある地域性を持って展開している。そのため、遺跡分布状況もこうした地理的環境に規制されて町内に分布を広げている。

まず、櫛形山麓から前面に形成された市ノ瀬台地上には、上居平遺跡をはじめとする縄文時代の遺跡が知られており、その下部、市ノ瀬台地縁辺部では複合的な遺跡群が立地している。の中でも古墳群は西部の扇状台地のゆるやかな傾斜のなかにひとつのブロックを成して点在する。しかしながら、現在はそのほとんどが壊滅しており、町の史跡に指定されている上村古墳が唯一残されているだけである。

一方、弥生時代終末から古墳時代初頭の遺跡は町内中央部の扇端部湧泉列上の微高地に進出しており、1981年に発掘調査された住吉遺跡をはじめ、本遺跡を含む鮎沢、江原、下宮地などが地縁的なつながりを持ってその分布を広げている。いずれも湧泉列を軸とした集落遺跡であり、今後周辺地区における調査によりその詳細が明らかになるであろう。

甲西町では現在約35カ所程の遺跡の存在が知られているが、その詳細を明らかにしたものは少ない。今後は町内における遺跡分布状況の全体的な見直しも急務とされている。



第1図 遺跡位置図

1：下宮地遺跡 2：江原遺跡 3：村内遺跡 4：住吉遺跡 5：清水遺跡



第2図 村内遺跡調査区域図

第Ⅲ章 村内遺跡

第1節 調査方法

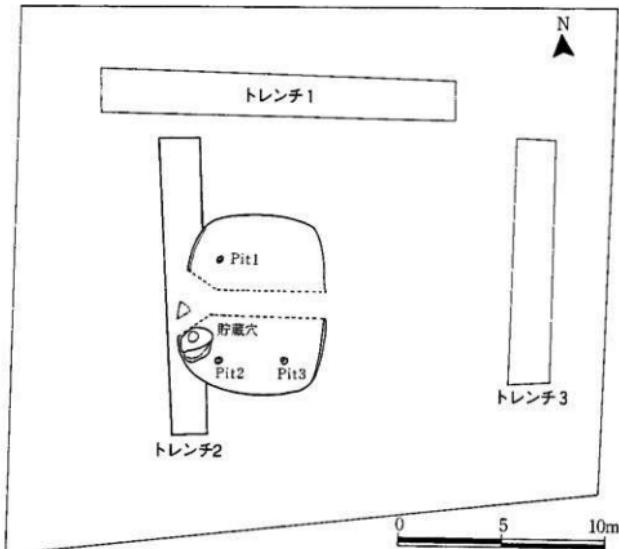
甲西町鮎沢字村内に所在する本遺跡は標高約262mの微高地にあり、北は古長禅寺に面した静かな果樹園に囲まれている。

調査は開発事業区域を対象とし、調査面積約690m²、12m×2mの試掘トレンチ3本を設定して、表土を重機により除去しながら遺構確認を行った。トレンチ2において地表面約50cmから土器片が大量に出土したため、その部分から表土はぎを拡大し遺構確認作業を進めた。

第2節 遺構と出土遺物

1. 概要

今回の調査は690m²という狭い範囲のなか、住居址1軒が確認された。しかし、耕作時による削平、及び暗渠が住居址内中央部に敷設されていたため、遺存状況は極めて悪かった。また天然の湧泉地帯でもあり、遺構への浸水が著しかった。



第3図 村内遺跡全体図

2. 住居址と出土遺物

位置・形状・規模

調査区域のほぼ中央西よりから堅穴住居址が1軒検出された。長軸約850cm、短軸約720cmの隅丸方形を呈している。遺構が比較的浅い部分から検出されたことから、耕作時による削平、擾乱がひどく、また住居址中央部は暗渠により遺構が寸断されており、わずかな遺存状況から精査をおこなった。

住居址の覆土及び床面全体に炭化材と焼土や炭化物が多量に散在し、焼失住居の様相を示していた。遺構の範囲も炭化材の広がりや土器の出土状況などから判断した。住居址の南西側からは自然縛がまとめて検出された。

壁・床面

暗渠等による著しい擾乱により、北壁、東壁部分で壁高約8cm程の遺存状況である。いずれも緩やかに立ち上がるプランを持つ。床面は小礫を多量に含む暗褐色土の上に、貼り床を薄く敷設している。また、全体に炭化材、焼土が多量に広がっていた。床面下は青色粘土層になっており、水が湧出する。

その他の施設

柱穴は3本確認された。深さはP1が27.8cm、P2が32.5cm、P3が27.0cmであった。また、住居址南西部、壁際において 180×150 cmの貯蔵穴が検出された。深さは約35cmを測り、テラス部分がある皿状の様相を呈している。いずれも床面下の青色粘土層まで堀り込んでおり、炭化材の混入が著しかった。

炉址は確認されなかったが、恐らく暗渠により壊滅されたと思われる。



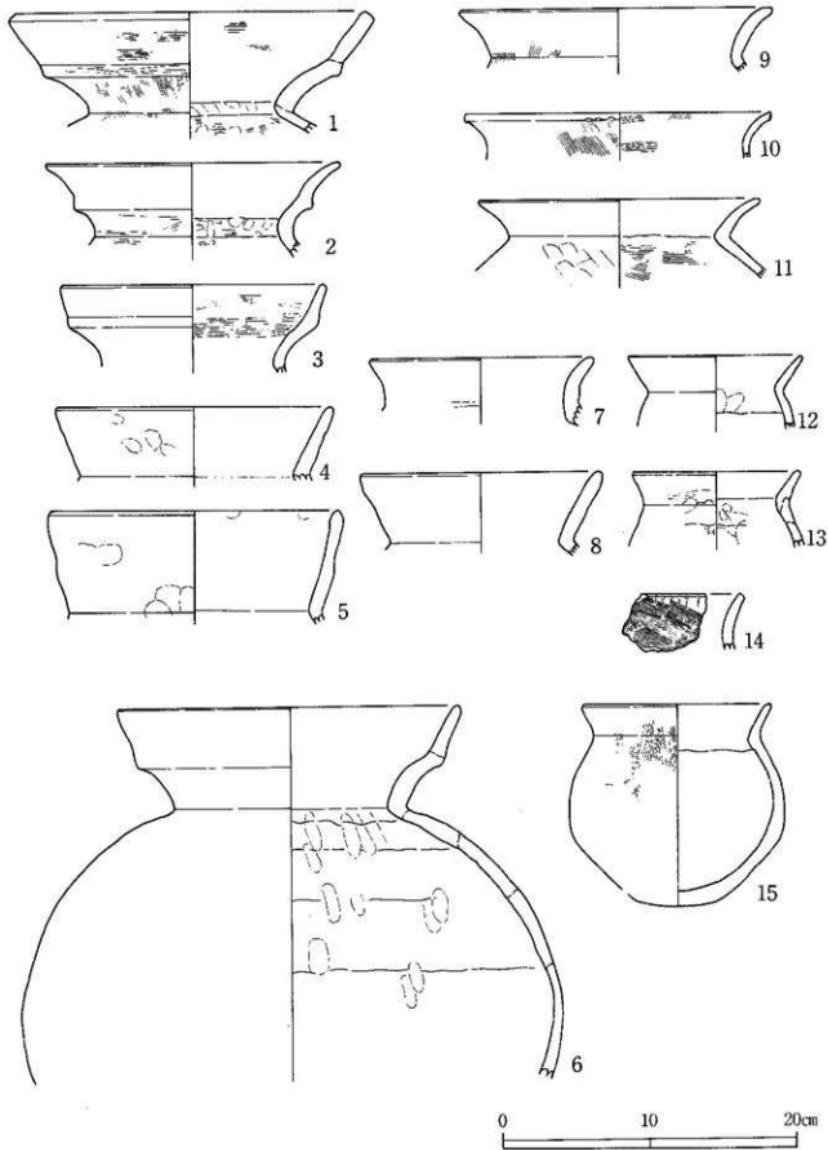
第4図 1号住居址平面図

出土遺物

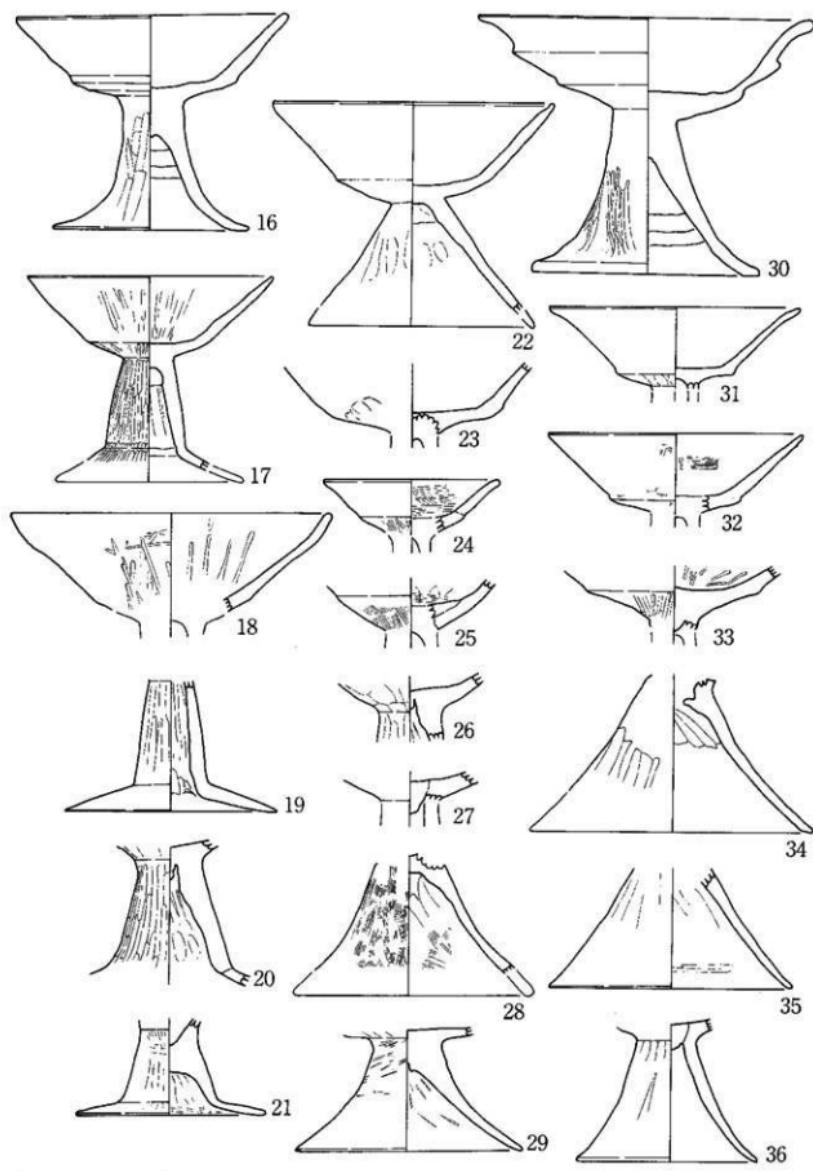
本住居址からは小片も含め、約200点の遺物が出土した。遺物は床面の全面にわたって分布していたが、特に貯蔵穴周辺に集中していた。

器種構成は壺、甕、高坏及び堆からなるが、各種の出土量には大きな差があった。特に高坏の出土量が多く、貯蔵穴内及び周辺からまとまって出土した。次に多かったのは小型の堆で、高坏と同様の出土状況であった。貯蔵穴内と自然疊近くから手捏ねの堆が出上している。

甕はほとんど出土しておらず、壺も住居址の北西床面より胴部下半を欠損した大型の壺が口縁部を下にして差し込まれた状態で検出されている他は、口縁部などわずかな量が確認されたのみであった。

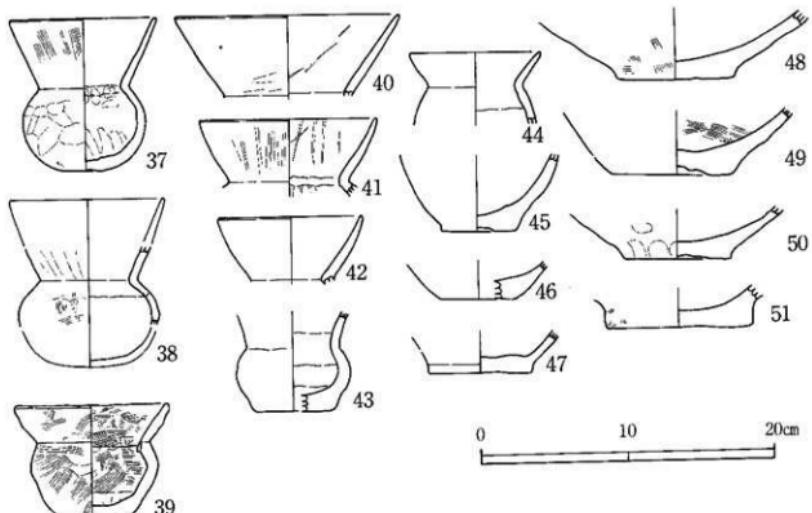


第5図 1号住居址出土遺物（1）



0 10 20cm

第6図 1号住居址出土遺物 (2)



第7図 1号住居址出土遺物（3）

出土土器観察表

No.	器形	法量(cm)			調整	胎土	色調	備考
		口径	底径	器高				
1	壺	23.8			外面 ハケからナデ 内面 ハケからナデ 指頭痕残る	石英、小石を含みやや粗い	明黄褐色	
2	壺	20			外面 ナデ 内面 指ナデが残る	赤色粒子、石英、小石を含みやや粗い	明黄褐色	
3	壺	18.2			外面 ナデ 内面 ハケ	密	明黄褐色	
4	壺	18.8			外面 ナデ 指頭痕残る 内面 ナデ	赤色粒子を含み粗い	黒褐色	
5	壺	19.6			外面 ナデ 指頭痕残る 内面 ナデ 指頭痕残る	赤色粒子、小石を多量に含み粗い	明黄褐色	
6	壺	23.6			外面 指ナデ 内面 指ナデ	赤色粒子、石英、小石を多量に含み粗い	明黄褐色	
7	甕	14.8			外面 ナデ 内面 ナデ	赤色粒子、石英、小石を多量に含み粗い	明黄褐色	
8	甕	16.6			外面 ナデ 内面 整形不鮮明	小石を多量に含みやや粗い	明褐色	
9	甕	21.4			外面 ハケからナデ 内面 ハケからナデ	小石を含み粗い	明黄褐色	

No.	器形	法量 (cm)			調 整	胎 土	色 調	備 考
		口径	底径	器高				
10	甕	20.8			外面 ハケ 内面 ハケ	白色石粒を多く含む	暗赤褐色	
11	甕	19.2			外面 ヘラからナデ 内面 ハケ	赤色粒子を含みやや粗い	明褐色	
12	甕	12			外面 ナデ 内面 整形不鮮明 輪積痕残る	小石、赤色粒子を多量に含みやや粗い	明褐色	
13	甕	11.2			外面 ハケからナデ 内面 ハケからナデ 口唇部指ナデ	赤色粒子、小石を多量含み粗い	黒褐色	
14	台付甕				外面 ハケ 内面 ハケ	小石を多量に含み粗い	黒褐色	
15	甕	12.8	5.9	13.9	外面 頭部周辺ハケ 内面 口縁部ナデ	粗砂粒を多く含み粗い	赤褐色	
16	高坏	19	13.3	15.9	外面 ナデからヘラみがき 内面 ナデ 坏部底部著しく剥離	小石を含む	明黄褐色	
17	高坏	16.6			外面 坏部は不鮮明みがき痕 内面 ケズりからナデ	赤色粒子、石英、長石をわずかに含む	にぶい黄褐色	
18	高坏	22			外面 ヘラみがき 内面 ヘラみがき			坏部1/2
19	高坏		14.4		外面 脚柱部みがき不鮮明 内面 ナデ	赤色粒子、石英を含む	にぶい黄褐色	脚部1/2
20	高坏				外面 脚柱部みがき不鮮明 内面 ケズりからナデ 下部ナデ	赤色粒子、小石を含み粗い	明褐色	
21	高坏		12.8		外面 ハケからみがき擦れにより不鮮明 内面 ケズりからナデ	赤色粒子、石英、小石を含みやや粗い	明黄褐色	
22	高坏	19			外面 ナデ 内面 ケズりからナデ(けずり裏わすか)	赤色粒子を多量に含む	明黄褐色	
23	高坏				外面 指ナデ? 内面 指ナデ?	赤色粒子を含み密	黄褐色	
24	高坏	12			外面 ハケからナデわざに絶跡が見られる 内面 ハケからナデ	赤色粒子、小石を含みやや粗い	明黄褐色	
25	高坏				外面 ハケ 内面 ハケからナデ	赤色粒子、石英、小石を含み粗い	明黄褐色	
26	高坏				外面 ケズりからナデ 内面 ナデ(底に不鮮明) 脚部内側けずり痕	赤色粒子、小石を多量に含み粗い	明黄褐色	
27	高坏				外面 ナデ(底に不鮮明) 内面 ナデ(底に作った跡の上に外基を塗り重ねてある)	赤色粒子を多量に含み粗い	橙色	坏部底部1/3
28	高坏				外面 ハケ 内面 ハケからナデ 脚部上部けずり出し	密	茶褐色	
29	高坏		15.6		外面 ケズりからナデ 内面 ケズりからナデ	赤色粒子、小石を含む	明褐色	
30	高坏	17.7	22.9	16.3	外面 脚柱部みがき痕あり 内面 底部ナデ	密	赤褐色	
31	高坏	17.2			外面 ナデ 内面 ナデ	赤色粒子を含む	明黄褐色	

No.	器形	法量(cm)			調 整	胎 土	色 調	備 考
		口径	底径	器高				
32	高壺	17.4			外面 ハラみがき 内面 ハラみがき わざにハケメ痕残る	赤色粒子、石英を含む	橙色	
33	高壺				外面 ハラみがき 内面 ハラみがき	赤色粒子、小石を含む	明褐色	
34	高壺		19.6		外面 ナデ? 不鮮明 内面 錫口部上部のかきだし處によるナデが見られる	赤色粒子、石英を含む	褐色	
35	高壺		16.8		外面 ケズリからナデ 内面 ケズリからナデ	赤色粒子を含み密	にぶい黄褐色	
36	高壺		12		外面 ハラからナデ 内面 ハラからナデ	赤色粒子を含む	赤褐色	
37	壺	10	2.8	10.5	外面 ケズリ後ナデ 下部ハケ 内面 指ナデ	赤色粒子をわずかに含み密	明黄褐色	
38	壺				外面 ハケからナデ下部けりからナデ 内面 指ナデ	小石を含む	黄褐色	
39	壺	10.4	4.8	7.9	外面 指ナデからハケ 内面 指ナデからハケ(底部けり)	赤色粒子、石英、小石を含みやや粗い	明黄褐色	手捏ね
40	壺	15.2			外面 摩滅により不鮮明 内面 炭化米付着	赤色粒子を含み密	明黄褐色	
41	壺	12			外面 不鮮明 内面 不鮮明 頸部に指ナデ	赤色粒子を含み密	明黄褐色	
42	壺	9.8			外面 不鮮明 内面 不鮮明 口唇部 ナデ?	赤色粒子、石英を含む	灰黄褐色	
43	壺		5.5		外面 ナデ 内面 ナデ	小石を含む	明黄褐色	手捏ね
44	壺	12			外面 ナデ 内面 指頭痕残る	白色粒を含む	明黄褐色	
45	壺		5.1		外面 ハラ(不鮮明) 内面 ハラ	白色小石を含む	暗赤褐色	
46	壺		5.2		外面 ナデ 内面 不鮮明	赤色粒子、小石を含む	赤褐色	
47	壺		7.2		外面 不鮮明 内面 不鮮明 指頭痕残る	小石を含むが密	橙褐色	
48	壺		8		外面 ハケが残るが不鮮明 内面 ナデ	小石を含みやや粗い	明茶褐色	
49	壺		8		外面 ハケ 内面 ハケ	小石を多く含み粗い	暗褐色	
50	壺		7		外面 指ナデ みがき不鮮明 内面 ナデ	赤色粒子、石英、小石を多量に含み粗い	明黄褐色	
51	壺		9.8		外面 ハケが見られる(不鮮明) 内面 ナデ	粗砂粒を多く含む	明褐色	底部1/4

第IV章 まとめ

甲府盆地の西南に位置する甲西町は、甲西バイパス、中部横断自動車道建設など大規模な開発事業の中核をなしており、それらに関連する発掘調査では古代から中世にかけてのさまざまな歴史の堆積を見ることができた。

さて、今回の調査はさまざまな制約があったにもかかわらず地権者、町文化財審議会の方々、並びに発掘調査関係者などから絶大なる御協力を頂き、狭小な調査面積のなか、古墳時代の住居址と多くの遺物を検出することができた。これらの資料は峠西地方一地域の歴史の流れにとどまらず、本県において古墳時代の様相を解明するうえでも大きな光明をもたらすことであろう。特に地権者である北村公平氏には発掘調査にあたり多大なる御協力を頂き感謝を申し上げる次第である。

以下では調査結果から若干の考察を加えまとめとする。

本地区から唯一検出された遺構である1号住居址は、出土遺物などからして5世紀半ば頃の時期と推定される。遺構は地表面から比較的浅い部分から検出されており、水害、耕作による削平や暗渠により残存状況は極めて悪く、床面や壁面の立ち上がりはわずかに残されていただけであった。そのため本住居址の具体的な規模、性格について若干の知見を得たにすぎない。

本住居址は不整形な隅丸方形を呈する大型のもので、住居址全体に炭化材及び焼土が多量に散在しており、また住居址南西側の貯蔵穴の覆土に炭化材が混入していたことからも火災住居と推察された。

出土遺物を見ると、壺や甕といった日常生活で使用する一般的な種類が多く、高壺や壺といった土器がほとんどを占めていた。また、大型の壺が床面に差し込まれたような特異な状態で検出されており、本住居址が日常的な住居とは異なる性格を有していたことを伺い知ることができる。

本町では湧泉列上に発達した集落址の存在が以前から指摘されてはいたものの周辺での発掘調査例は少なく、具体的に言及するには及ばなかったが、今回の調査によってその存在を示唆することができた。

近年発掘調査がなされた大師東丹保遺跡から4世紀末から5世紀初頭にかけての古墳が発見されており、本地区周辺との地縁的な関連、特に政治的、社会的な結びつきを解明するうえでも本調査結果の成果は大きい。今後の周辺での調査に期待したい。

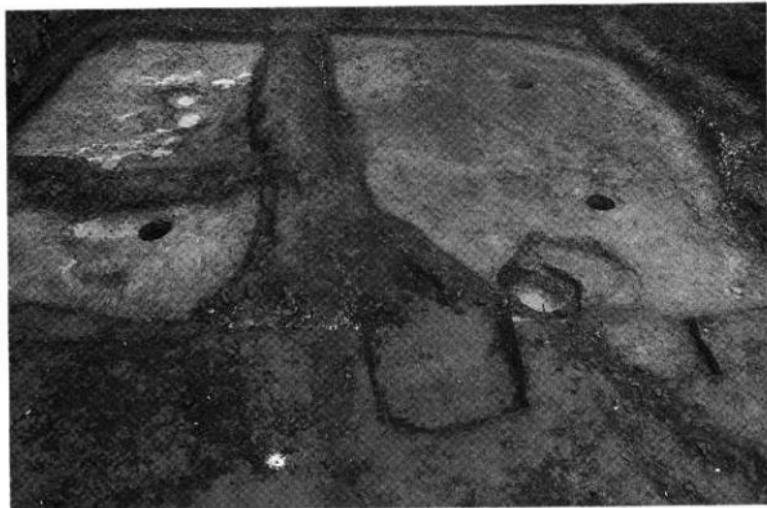
引用・参考文献

- 甲 西 町 1973『甲西町誌』
- 甲西町教育委員会 1981『住吉遺跡』
- 甲西町教育委員会 1986『上ノ東遺跡』
- 末木健・坂本美夫 1984『古墳時代土器の研究』古墳時代土器研究会
- 中 山 誠 二 1986『甲府盆地における古墳出現期の土器様相』『山梨考古学論集Ⅰ』山梨県考古学協会
- 小 林 健 二 1991『甲府盆地におけるS字甕の定着について』『古文化談義』第26集九州古文化研究会
- 山梨県教育委員会 1978『西田遺跡－第一次発掘調査報告書－』
- 山梨県教育委員会 1987『二之宮遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第23集
- 山梨県教育委員会 1995『大師東丹保遺跡2』山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第102集

図 版



1号住居址全景



1号住居址完掘状況



1号住居址土器出土状况



1号住居址土器出土状况



1号住居址土器出土状况



壺出土状况



貯藏穴周辺土器出土状況



貯藏穴周辺土器出土状況



貯藏穴周辺土器出土状況

図版 4



調査作業風景



調査作業風景



発掘調査参加者



1



2



6



15



16



17



19



20



22



28



30



34



36



37



39



41

甲西町文化財調査報告

村内遺跡

—甲西町鮎沢字村内遺跡発掘調査報告書—

印刷日 1997年4月30日

発行日 1997年5月 1日

発行 甲西町教育委員会
〒400-04 山梨県中巨摩郡甲西町鮎沢1212
TEL 0552-82-3120

印刷 (株)有泉堂
